

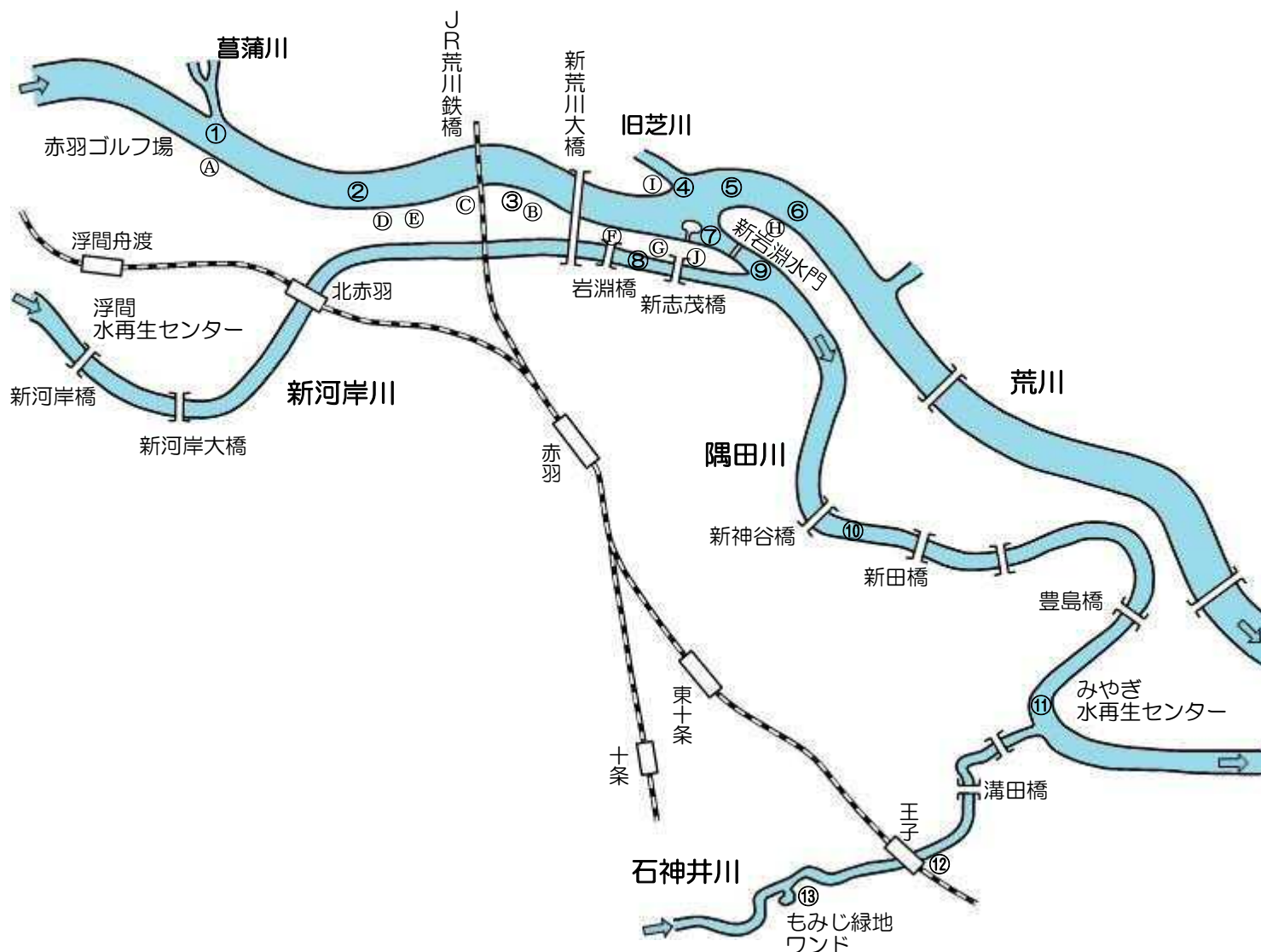
第33回
北区河川生物生息調査
報告書
平成28年度



平成29年3月
北 区

北区河川生物生息調査地点図（平成28年度）

釣り調査地点 A～J
投網調査地点 ①～⑬



投網調査地点

◎平成 28 年 9 月 15 日 ☆9 月 28 日 ★10 月 5 日
[荒川]

- ☆★-① 菖蒲川荒川合流点付近
- ☆★-② JR 荒川鉄橋上流 200-400m 付近
- ◎-③ 荒川子どもの水辺ワンド
- ☆★-④ 旧芝川荒川合流点付近
- ★-⑤ 旧芝川荒川合流点下流 200m 付近
- ☆-⑥ 旧芝川荒川合流点下流 600m 付近
- ☆-⑦ 旧岩淵水門下流

〔新河岸川〕

- ★-⑧新志茂橋上流 200m 付近

[隅田川]

- ☆★-⑨新岩淵水門下流
- ☆-⑩新神谷橋下流 300m 付近
- ☆-⑪みやぎ水再生センター排水口付近

[石神井川]

- ☆-⑫石神井川王子駅下トンネル内
◎-⑬もみじ緑地ワンド

釣り調査地点

平成28年10月5日

[荒川]

- A 菖蒲川荒川合流点右岸
- B 荒川子どもの水辺ワンド
- C JR 荒川鉄橋上流 20m 付近右岸
- D JR 荒川鉄橋上流 200m 付近右岸
- E JR 荒川鉄橋上流 150m 付近右岸
- F 新荒川大橋下流 150m 付近右岸
- G 新荒川大橋下流 500m 付近右岸
- H 新岩淵水門 100m 付近荒川右岸
- I 旧芝川荒川合流点

[新河岸川]

- U 新志茂橋付近左岸

は じ め に

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、平成28年度に実施した第33回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、飯島香織氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

北区内の河川に生息している魚類を把握するために、9月15日、9月28日、10月5日の3回に分けて魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は平成28年9月15日に、石神井川もみじ緑地ワンドと荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。石神井川もみじ緑地ワンドでは、直前にワンド内の水を本流に排水し、魚の採集がしやすい状態で調査をしました。石神井川の本流は増水していたため、毎年行っている本流の調査は実施できませんでした。

第2回調査は平成28年9月28日に、荒川・隅田川・石神井川で、船からの投網による調査をしました。

第3回調査は平成28年10月5日に、荒川・荒川子どもの水辺ワンド・新河岸川で、北区釣魚連合会の協力による釣りと、荒川・新河岸川・隅田川で船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月15日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第2回	9月28日	魚類生息状況	船からの投網	荒川 隅田川 石神井川
第3回	10月5日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り 船からの投網	荒川・荒川子どもの水辺ワンド 新河岸川 隅田川

〔石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）〕

すり鉢状の護岸構造のため川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が繁殖しやすいようになっています。



〔荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）〕

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。維持管理や調査活動は、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。国土交通大臣表彰の「平成26年度手づくりふるさと郷土賞」一般部門に選定されています。



【調査結果】

3日間の調査で、36種類 986尾の魚類が確認されました。新たに2種類（キチヌ・ヒナハゼ）の魚類が確認され、調査を始めてから今までに確認された魚種は57種類となりました。

東京都レッドリスト記載種は10種類、環境省レッドリスト記載種は3種類、外来種は6種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である北区内河川の特徴を表しています。

石神井川もみじ緑地ワンドで確認されたウグイ・アブラハヤ・シマドジョウ・ギバチは元々この川には生息せず流れ分布も異なるため、人為的放流によるものと考えられます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系に様々な影響を及ぼす可能性があるので行うべきではありません。

平成28年度調査で新たに確認した魚

科・種名	情報	写真
ハゼ科 ヒナハゼ	最大でも3cm程度の小型のハゼの仲間。川の下流域や汽水域に生息しています。1960年代は和歌山県が北限でしたが、徐々に分布を拡大し、2000年代には平和島や品川に現れ、現在は東京湾で繁殖をしています。温暖化の拡大とともに分布の北限を北に延ばしてきたようです。	 平成28年9月15日（第1回調査） 場所：荒川子どもの水辺ワンド 調査方法：手網
タイ科 キチヌ	クロダイに似ているが、生きている時は腹びれ、尾びれ、尻びれの下の方が黄色いことからキチヌ（黄色いクロダイ）と呼ばれ、キビシなどの別名があります。沿岸に生息しますが、汽水域でも生活し、川の下流域にも溯上してきます。東京湾沿岸には広く生息し、放流も行われています。	 平成28年10月5日（第3回調査） 場所：荒川 調査方法：釣り

情報提供：君塚芳輝氏

参考資料：山溪カラー名鑑日本の淡水魚（1989年、山と溪谷社）

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考	
				荒川	子どもの水辺ワンド			石神井川	もみじ緑地ワンド			
1	ニシン	ニシン	サッパ	2						2		
2			コノシロ	2						2		
3	サケ	キュウリウオ	ワカサギ		9					9	国内移殖種	
4	コイ	コイ	タモロコ		1				38	39	国内移殖種	
5			モツゴ		11				160	171		
6			ニゴイ	7	1			1		9		
7			ツチフキ		1					1	国内移殖種	
8			アブラハヤ						261	261	国内移殖種※	
9			ウグイ						1	1	国内移殖種※	
10			マルタ	2	34	1				37		
11			オイカワ		6				73	79		
12			ハス	2	1					3	国内移殖種	
13			ハクレン	4		2				6	外来種	
14			ギンブナ	7	28	1			1	37		
15			ゲンゴロウブナ	3						3	国内移殖種	
16			コイ		5					5		
17			タイリクバラタナゴ		11					11	外来種	
18			ドジョウ	ドジョウ						26	26	
19				シマドジョウ						11	11	国内移殖種※
20	ナマズ		ギギ	ギバチ					2	2	国内移殖種※	
21	ダツ	メダカ	メダカ*		1			16	17	国内移殖種※		
22	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ		7				7	特定外来種		
23	ボラ	ボラ	ボラ	13	12	1			26			
24	スズキ	スズキ	スズキ	39	4		3		46			
25		タイ	キチヌ	2					2			
26		サンフィッシュ	ブルーギル		32				32	特定外来種		
27			オオクチバス	1	2				3	特定外来種		
28		ヒイラギ	ヒイラギ	5		1			6			
29		ハゼ	アベハゼ		25				25			
30			ヒナハゼ		1				1			
31			クロダハゼ					1	1			
32			ビリンゴ		1				1			
33			ヌマチチブ	14	19	1	4	2	40			
34			シモフリシマハゼ	1	4				5			
35			マハゼ	39		4	14		57			
36			アジシロハゼ	2					2			
8目13科36種類			種類数	17	22	7	3	3	10	36		
			個体数合計	145	216	11	21	4	589	986		

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

【外来種・国内移殖種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているカダヤシは在来のメダカとの競合が懸念されています。ブルーギルやオオクチバスは小型魚類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	標準和名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	外来生物法	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	ハクレン	○	○				●
		ハス	○					●
		タイリクバラタナゴ	○					●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○				●	●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○				●	●
		オオクチバス	○				●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト及び東京都レッドリスト（2010年版）の選定基準で指定されている種。東京都レッドリストは区部の評価を基準としました。

目名	科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都 レッドリスト	環境省 レッドリスト
コイ	コイ	ニゴイ	○			○	準絶滅危惧	
		アブラハヤ※				○	絶滅危惧Ⅱ類	
		マルタ	○	○			留意種	
	ドジョウ	ドジョウ				○		情報不足
		シマドジョウ※				○	絶滅危惧Ⅱ類	
ナマズ	ギギ	ギバチ※				○	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類
ダツ	メダカ	メダカ*	○			○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
スズキ	ハゼ	アベハゼ	○				準絶滅危惧	
		ビリンゴ	○				準絶滅危惧	
		ヌマチチブ	○	○	○	○	留意種	
		アシシロハゼ	○				留意種	

※流程分布からみて国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版」（東京都環境局）

絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実に考えられるもの

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

留意種：現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため上記カテゴリーには該当しないが、留意が必要と考えられるもの

「環境省レッドリスト2015【汽水・淡水魚類】」

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀と PCB の量を分析しました。その結果、全検体で総水銀と PCB を検出しました。このうち、新河岸川で採集したスズキに含まれていた総水銀の含有量は、他の検体と比較して高い数値でした。

魚類は自然界に存在する水銀を食物連鎖の過程で体内に蓄積していきます。水銀含有量は食物連鎖の上位のものほど増加し、魚の成長（体のサイズの増大）とともに体内の水銀濃度も増加していく傾向があります。スズキは魚食性で、この辺りの流域では食物連鎖の上位種であること、今回検査したスズキのサイズが全長 389mm と大きかったことから、他の魚と比較して総水銀の含有量が多かったと考えられます。

平成 28 年 10 月 5 日採集

	魚類名	採集河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	スズキ	荒川	菖蒲川荒川合流点右岸	0.18	0.16
2	スズキ	荒川	旧芝川荒川合流点	0.19	0.48
3	ボラ	荒川	旧芝川荒川合流点付近	0.03	0.22
4	マルタ	隅田川	新岩淵水門下流	0.06	0.84
5	スズキ	新河岸川	新志茂橋上流200m付近	0.55	0.44
6	マハゼ	新河岸川	新志茂橋付近左岸	0.06	0.16

- （備考） 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
 2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
 3.スズキ（荒川）・ボラ・マハゼについては、数尾の可食部を混合したものを試料とした。
 4.暫定的規制値
 ・総水銀…0.4mg/kg （内水面水域の河川産の魚介類については適用外）
 （昭和 48 年 7 月 23 日付厚生省環境衛生局長通知「魚介類の水銀の暫定的規制値について」）
 ・PCB 内海内湾（内水面を含む）魚介類（可食部）…3.0mg/kg
 （昭和 47 年 8 月 24 日付厚生省環境衛生局長通知「食品中に残留する PCB の規制について」）
 5.分析方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

【資料】

第1回投網・手網調査の結果（平成28年9月15日）

(1)石神井川

もみじ緑地ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	41~94	34~75	38
2	モツゴ	47~97	37~79	160
3	アブラハヤ	25~94	21~75	261
4	ウグイ	32	27	1
5	オイカワ	23~103	17~84	73
6	ギンブナ	73	58	1
7	ドジョウ	38~165	30~146	26
8	シマドジョウ	42~51	35~44	11
9	ギバチ	42~60	33~53	2
10	メダカ	23~30	18~24	16

(2)荒川

荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ワカサギ	55~80	46~69	9
2	モツゴ	17~86	15~70	11
3	ニゴイ	76	61	1
4	ツチフキ	61	48	1
5	マルタ	15~118	13~99	31
6	オイカワ	15~25	13~22	6
7	ハス	20	16	1
8	ギンブナ	19~88	17~69	28
9	コイ	15~185	12~157	5
10	タイリクバラタナゴ	18~67	12~52	11
11	メダカ	23	19	1
12	カダヤシ	16~42	13~34	7
13	ボラ	92~96	77~79	12
14	ブルーギル	25~63	20~51	10
15	オオクチバス	85~128	69~107	2
16	アベハゼ	20~38	17~33	25
17	ヒナハゼ	16	14	1
18	ビリンゴ	34	28	1
19	ヌマチチブ	10~54	8~45	17
20	シモフリシマハゼ	35~55	27~45	4

第2回投網調査の結果（平成28年9月28日）

(1)荒川

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	51	40	1
2	ギンブナ	172~245	134~195	2
3	ボラ	62	50	1
4	スズキ	151	121	1
5	ヌマチチブ	47	39	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	97	78	1
2	ニゴイ	122	102	1
3	ボラ	372	315	1
4	スズキ	180	144	1
5	マハゼ	100	79	1

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	114	95	1
2	ボラ	110	88	1
3	スズキ	395	331	1
4	マハゼ	110	86	1

旧芝川荒川合流点下流600m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	87~90	67~75	2
2	ニゴイ	79~101	64~83	2
3	ゲンゴロウブナ	384	301	1
4	マハゼ	92~93	72~74	2

旧岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ゲンゴロウブナ	139	104	1

(2)隅田川

新岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ギンブナ	112	84	1
2	ヌマチチブ	60	48	1
3	マハゼ	75~99	31~77	3

新神谷橋下流300m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ヒイラギ	54	42	1
2	マハゼ	92	69	1

みやぎ水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ハクレン	785~910	659~751	2

(3)石神井川

石神井川王子駅下トンネル内（投網・手網）

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	415	357	1
2	クロダハゼ	29	26	1
3	ヌマチチブ	21~27	18~21	2

第3回投網調査の結果（平成28年10月5日）

(1) 荒川

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	85	74	1
2	ハス	120~135	97~108	2
3	ギンブナ	100	78	1
4	ゲンゴロウブナ	119	89	1
5	ボラ	90~107	71~86	2
6	オオクチバス	433	345	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長	標準体長	個体数
1	ニゴイ	103~119	85~100	2
2	ハクレン	目視確認		3
3	ギンブナ	112~119	86~94	3
4	スズキ	159	128	1
5	マハゼ	83~115	69~63	2
6	アシシロハゼ	25	20	2

※アシシロハゼは1尾のみ測定

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	102~162	81~130	8

旧芝川荒川合流点下流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	114	93	1
2	ハクレン	869	792	1
3	ヒイラギ	17~55	14~43	5
4	マハゼ	79	65	1

(2) 隅田川

新岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	247	208	1
2	ボラ	153	137	1

(3) 新河岸川

新志茂橋上流200m付近

1	スズキ	389	325	1
---	-----	-----	-----	---

第3回釣り調査の結果（平成28年10月5日）

(1) 荒川

A. 菖蒲川荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	139~213	114~176	14
2	ヌマチチブ	52	41	1
3	マハゼ	110	89	1

B. 荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	72	58	1
2	マルタ	68~82	54~64	3
3	ブルーギル	49~71	38~57	22
4	スズキ	159~214	133~174	4
5	ヌマチチブ	35~58	28~45	2

C. JR荒川鉄橋上流20m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	181	146	1
2	キチヌ	170	140	1
3	ヌマチチブ	17~60	15~49	12
4	マハゼ	92~126	85~104	3

D. JR荒川鉄橋上流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	198	165	1
2	キチヌ	171	139	1
3	マハゼ	85~123	69~100	10

E. JR荒川鉄橋上流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	172~209	139~170	7
2	マハゼ	83~110	65~84	7

F. 新荒川大橋下流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	154~188	125~154	2
2	マハゼ	113~125	91~101	2

G. 新荒川大橋下流500m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	259	218	1
2	ギンブナ	358	307	1

H. 新岩淵水門下流100m付近荒川右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	145~169	118~135	3
2	シモフリシマハゼ	35	30	1
3	マハゼ	104~138	86~114	7

I. 旧芝川荒川合流点

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	145~237	120~196	7
2	マハゼ	111~126	91~101	2

(2) 新河岸川

J. 新志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	150~158	122~125	2
2	ヌマチチブ	52~70	43~49	4
3	マハゼ	100~126	80~100	14

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

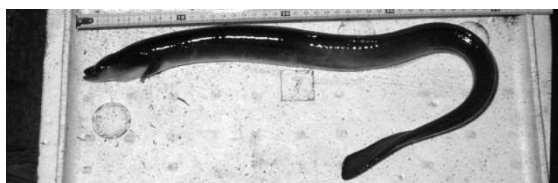
<1> サッパ



<2> コノシロ



<3> ウナギ



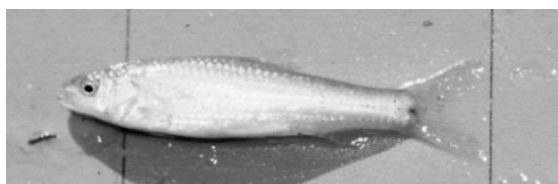
<4> アユ



<5> ワカサギ



<6> タモロコ



<7> スゴモロコ



<8> モツゴ



<9> ニゴイ



<10> カマツカ



<11> ツチフキ



<12> アブラハヤ



<13> ウグイ



<14> マルタ



<15> オイカワ



<16> ハス



北区で見られる魚たち 2 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

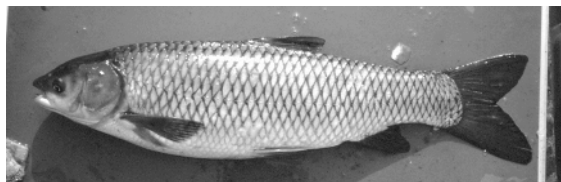
<17> ワタカ



<25> コイ



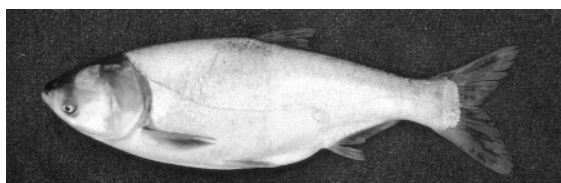
<18> ソウギョ



<26> ヤリタナゴ



<19> ハクレン



<27> アカヒレタビラ



<20> コクレン



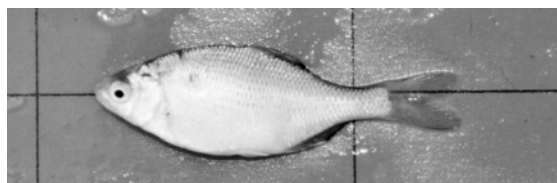
<28> タイリクバラタナゴ



<21> キンプナ



<29> ゼニタナゴ



<22> ギンブナ



<30> ドジョウ



<23> ゲンゴロウブナ



<31> シマドジョウ



<24> キンギョ

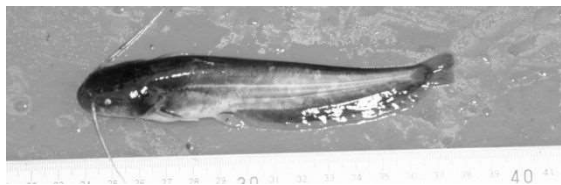


<32> ギバチ



北区で見られる魚たち 3 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<33> ナマズ



<34> メダカ



<35> クルメサヨリ



<36> カダヤシ ※特定外来生物



<37> グッピー



<38> ボラ



<39> カムルチー



<40> スズキ



<41> キチヌ



<42> オオクチバス ※特定外来生物



<43> コクチバス ※特定外来生物



<44> ブルーギル ※特定外来生物



<45> ヒイラギ



<46> シマイサキ



<47> コトヒキ



<48> アベハゼ



北区で見られる魚たち 4 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<49> ヒナハゼ



<50> クロダハゼ



<51> ウロハゼ



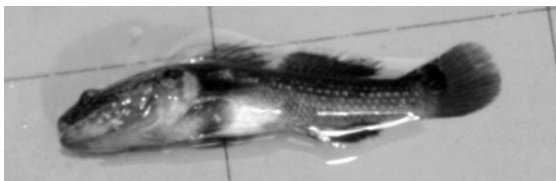
<52> ウキゴリ (淡水型)



<53> ビリンゴ



<54> ノマチチブ



<55> シモフリシマハゼ



<56> マハゼ



<57> アシシロハゼ



君塚芳輝氏撮影：

1,10,13,21,26,31,36,46,47,48,50,53

【年度別捕獲魚類一覧表】

番号	魚 類	S59 年度	S60 年度	S61 年度	S62 年度	S63 年度	H1 年度	H2 年度	H3 年度	H4 年度	H5 年度	H6 年度	H7 年度	H8 年度	H9 年度	H10 年度	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
1	サッパ																										19							2
2	コノシロ												4				29	7		6	1	98	19			91	21	19		39	20	65		2
3	ウナギ							2	2	1		6				1			1							1		1		1	2	2	3	
4	アユ							1	1																						1			
5	ワカサギ															1	4				1	44	13	4			1		2				6	9
6	タモロコ									2				1							3		6	12	8	1		11	9	15	11		5	39
7	スゴモロコ		18	76		1				3		5									1	1	2	4			3	8				4	14	
8	モツゴ	5	18	9	稚魚	6	1	多数	58	61	72	46	22	149	75	236	507	67	42	19	297	235	192	231	192	189	109	48	50	102	137	31	50	171
9	ニゴイ	11	9	7	稚魚	2		15	5	16		8	4	5	2	3	7	12	8	8	14	9	14	3	12	7	14	11	24	4	26	7	5	9
10	カマツカ				1																	1	1											
11	ツチフキ					1																	1										2	1
12	アブラハヤ																	6		2	11	2	33	121	81	77	202	6	120	68	164	56	298	261
13	ウグイ	3	1	1	2	1	5	9	4		20																				1		1	1
14	マルタ						2	1	10	4	3	11	3	5	13	30	7	9		4	28	12	54	7	5	30	66	28		3	23	19	14	37
15	オイカワ	1	13	2	稚魚			2					1	1		1	6	2		1			110	31	60	3	90	19	31	35	31	6	113	79
16	ハス		1	1	6+稚魚	2		1	1	1		6	3	1		1	3			7	1		2			6	2	12	1	1	2	13	1	3
17	ワタカ																	8	2		1				1									
18	ソウギョ	2	3		1																													
19	ハクレン	42	2		4	2	6		7	3	2	1			1	1	13	3		5	1	1	2	1	2		2		1				2	6
20	コクレン							1																										
21	キンブナ						2	7	2		1			11													1		2					
22	ギンブナ	22	44	147	20+稚魚	6	19	14	29	31	15	23	22	53	11	12	9	9	9	2	4	5	14	13	74	64	40	36	18	65	26	4	18	37
23	ゲンゴロウブナ	2	7	8	15	17	13	24	28	6	8	15	3	7	8	1	9	10	22	2	14	14	5	16	7	3	7	5	5	9	3	1	4	3
24	キンギョ			1					1			1			1							23	1	3	1			13	10		1			
25	コイ	43	18	41	15	8	9	3+多数	14	15	7	8	12	15	18	6	10	9	20	9	8	84	4	13	17	7	16	10	10	3	7	3	11	5
－	コイとフナの雑種																										1			1			1	
－	コイ科稚魚																															2		
26	ヤリタナゴ																												2					
27	アカヒレタビラ																						1											
28	タイリクバラタナゴ				微小			19				3	2	2	42						1		2	1	2	27	34	53	55	9	14	4	8	11
29	ゼニタナゴ									1																								
30	ドジョウ							1						2	1	14	19	6		1	11	33	140	23	41	19	22	41	18	7	4	21	40	26
31	シマドジョウ																															1	8	11
32	ギバチ																						8	2	1			3	13	4	2	1	4	2
33	ナマズ							1																										
34	メダカ				微小							70		1	20	97		3			2	12	8	4	1			10	2	3	1	2	41	17
35	クルマサヨリ																												1	2	1			
36	カダヤシ															5						5	3	42	7		6	11	1	1	5	6	4	7
37	グッピー													1	1							1			9	2			7	4				
38	ボラ		2	5	3	3			1	11	2	7	22	64	62	17	71	41	30	20	22	49	100	72	34	49	61	26	72	16	322	59	50	26
39	カムルチー										1															6			94	2				
40	スズキ			2	1		2	1	1	2	5	3	8	8	10	4	28	20	17	9	12	10	12	17	28	56	20	27	20	99	106	16	14	46
41	キチヌ																																	2
42	ブルーギル				1			3	1			1		1		2						10	13	10	1	16	4	6	7	16	17	6	6	32
43	オオクチバス																																	

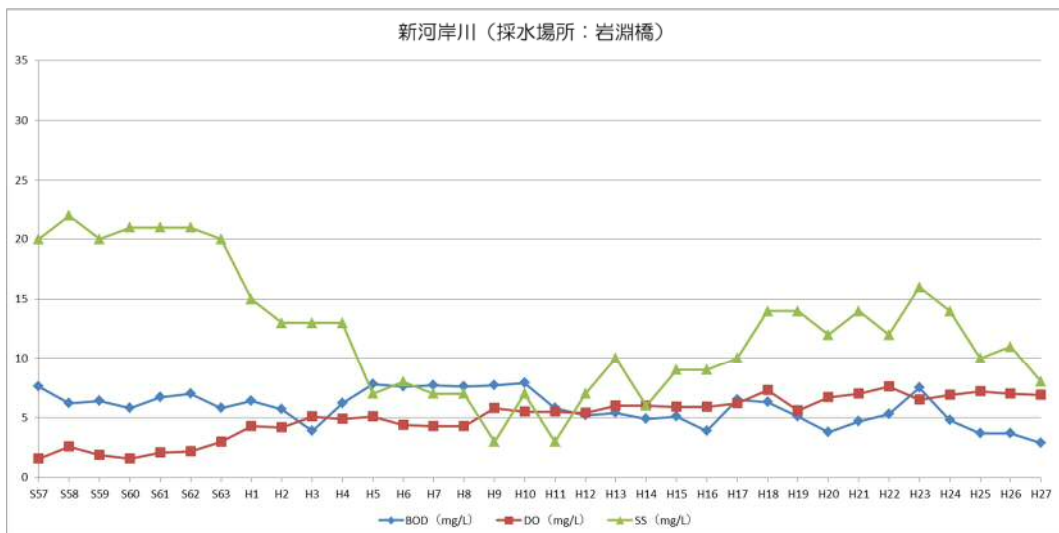
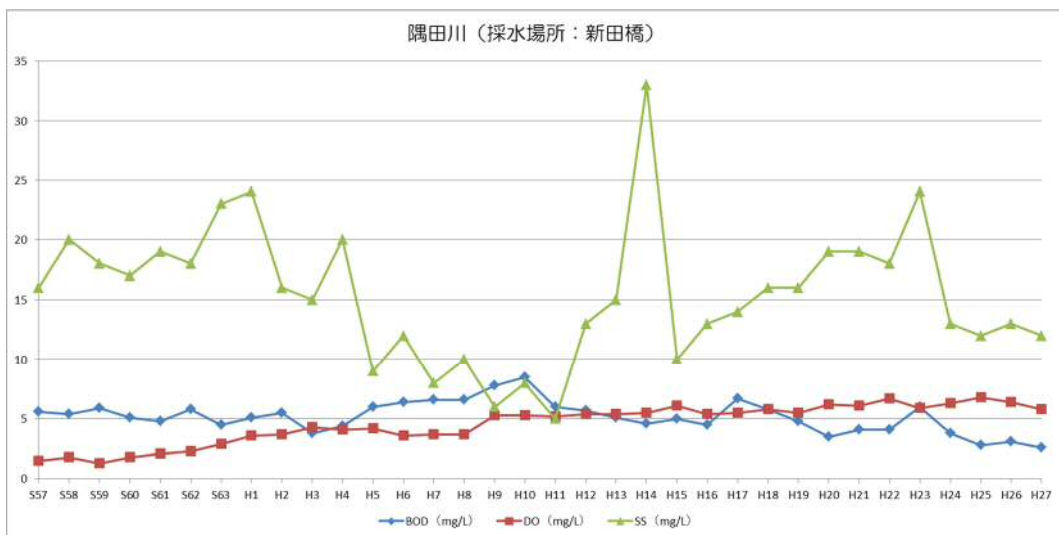
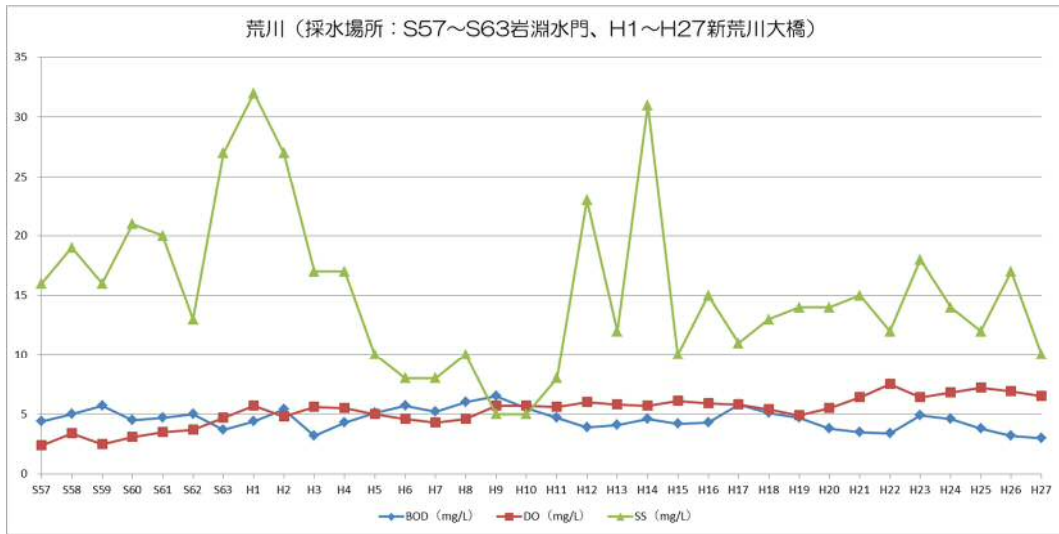
注：S62年度の「稚魚」は稚魚多数を表す（荒川での四つ手網による捕獲）。H2年度の「多数」は成魚多数を表す。

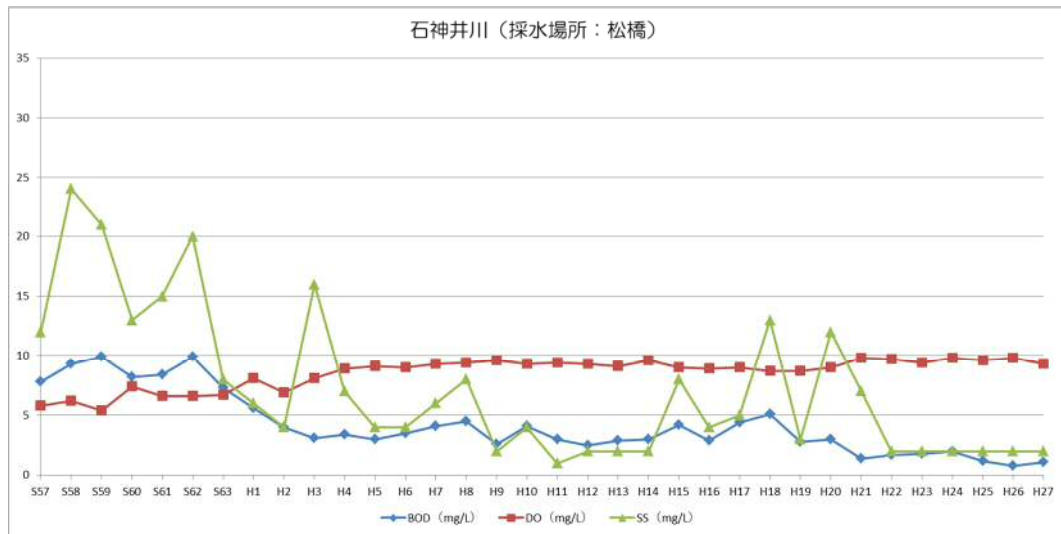
【河川別・年度別捕獲魚類一覽表】

河川名	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度																		
荒川	オイカワ	1	オイカワ	13	オイカワ	種魚 ハス	2	ウグイ	4	ウナギ	2	ウナギ	2	ウナギ	1	ハクレン	2	ウナギ	6	ハス	2	ハス	1	マルタ	4	ウナギ	1	ワカサギ	3	ウタカ	8	ウナギ	1			
	ウグイ	3	ハス	1	ハス	1	ハス	1	マルタ	2	アユ	1	アユ	1	ハス	1	モツゴ	51	ハス	5	マルタ	3	マルタ	3	ハクレン	1	ワカサギ	1	ハス	3	ハクレン	3	ウタカ	2		
	ソウギョ	2	ウグイ	1	ウグイ	1	ウグイ	2	ハクレン	2	ハクレン	6	オイカワ	2	ハス	1	マルタ	3	コイ	4	マルタ	6	モツゴ	15	モツゴ	4	モツゴ	53	ハス	1	マルタ	5	モツゴ	18	モツゴ	41
	ハクレン	42	ソウギョ	3	モツゴ	3	ソウギョ	1	モツゴ	4	モツゴ	1	ハス	1	マルタ	1	ハクレン	3	ゲンゴロウナ	8	ハクレン	1	ニゴイ	2	ニゴイ	4	ニゴイ	2	マルタ	2	ハクレン	13	ニゴイ	8	ニゴイ	5
	モツゴ	5	ハクレン	2	スゴモロコ	76	ハクレン	4	ツチフキ	1	コイ	6	ウグイ	9	ハクレン	7	モツゴ	39	ギンブナ	11	モツゴ	25	コイ	5	コイ	3	コイ	11	ハクレン	1	モツゴ	3	コイ	6	コイ	9
	ニゴイ	11	モツゴ	16	ニゴイ	7	モツゴ	種魚	スゴモロコ	1	ゲンゴロウナ	7	マルタ	1	モツゴ	44	スゴモロコ	3	ボラ	1	スゴモロコ	4	ゲンゴロウナ	3	ゲンゴロウナ	6	ゲンゴロウナ	6	モツゴ	143	ニゴイ	7	ゲンゴロウナ	6	ゲンゴロウナ	15
	コイ	39	スゴモロコ	18	コイ	34	カマツカ	1	ニゴイ	2	ギンブナ	1	コクレン	1	ニゴイ	5	ニゴイ	16	カムルチー	1	ニゴイ	8	ギンブナ	8	ギンブナ	12	ギンブナ	10	ニゴイ	3	コイ	2	ギンブナ	6	ギンブナ	9
	ゲンゴロウナ	2	ニゴイ	9	ゲンゴロウナ	6	ニゴイ	種魚	コイ	8	スズキ	2	ニゴイ	15	コイ	3	コイ	3	ボラ	21	タイリクバラタナゴ	1	タイリクバラタナゴ	41	コイ	2	ゲンゴロウナ	7	ボラ	19	ボラ	21	スズキ	17		
	ギンブナ	17	コイ	15	ギンブナ	113	コイ	11	ゲンゴロウナ	17	マハゼ	6	ギンブナ	7	ギンブナ	1	ゲンゴロウナ	6	ビリンゴ	2	ゲンゴロウナ	15	スズキ	8	ボラ	26	メダカ	20	ゲンゴロウナ	1	ギンブナ	9	スズキ	20	スズキ	17
			ゲンゴロウナ	6	ボラ	3	ゲンゴロウナ	11	ギンブナ	6			ゲンゴロウナ	22	ゲンゴロウナ	16	ギンブナ	12	マハゼ	35	ギンブナ	6	ヌマチチブ	2	スズキ	8	ボラ	37	ギンブナ	12	ボラ	63	ヒラギ	13	マハゼ	49
			ギンブナ	14	スズキ	2	ギンブナ	17 種魚	ボラ	3			ギンブナ	14	ギンブナ	11	ゼナタナゴ	1			メダカ	70	シモフリシマハゼ	2	ブルーギル	1	スズキ	10	メダカ	96	スズキ	22	クロダハゼ	2		
			ボラ	2	マハゼ	2	タイリクバラタナゴ	微小	シモフリシマハゼ	1			タイリクバラタナゴ	19	ボラ	1	ボラ	11			ボラ	7	マハゼ	166	ヌマチチブ	1	ヨシノボリ類	3	ボラ	13	ヒラギ	1	ヌマチチブ	1		
			マハゼ	35	キンギョ	1	メダカ	微小	マハゼ	83			ドジョウ	1	シモフリシマハゼ	1	スズキ	2			スズキ	3	コノシロ	4	シモフリシマハゼ	6	ヌマチチブ	9	スズキ	4	ヨシノボリ類	1	マハゼ	28		
							ボラ						ナマズ	1	マハゼ	25	ヌマチチブ	10			ブルーギル	1			ビリンゴ	9	シモフリシマハゼ	6	ブルーギル	2	ヌマチチブ	1	コノシロ	7		
							スズキ						スズキ	1	キンギョ	1	マハゼ	231							マハゼ	42	マハゼ	157	ヌマチチブ	7	シモフリシマハゼ	1				
							ブルーギル						ブルーギル	3												マハゼ	1	マハゼ	50	ウキコイ(種不明)	1					
							シモフリシマハゼ						シモフリシマハゼ	1																						
							マハゼ						マハゼ	76																						
							モツゴ						モツゴ	多数																						
							コイ						コイ	多数																						
																										</										

河川名	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	種類合計(昭和59年度～平成28年度)															
荒 川	オイカワ	1 ハス	7 ウカサギ	44 ウカサギ	13 ウカサギ	4 マルタ	5 ウナギ	1 ウカサギ	1 ウナギ	1 ウカサギ	2 コノシロ	30 コノシロ	1 コノシロ	65 ウナギ	3 サツバ	2 サツバ	ナズ														
	ハス	7 マルタ	13 マルタ	10 オイカワ	9 マルタ	5 ウタカ	1 オイカワ	2 オイカワ	2 ハス	12 ハス	1 モツゴ	8 ウナギ	2 ウカサギ	6 コノシロ	2 コノシロ	2	シノボリ類														
	マルタ	4 ウタカ	1 ハクレン	1 ハス	2 ハクレン	1 ハクレン	1 ハス	6 ハス	2 マルタ	22 ハクレン	1 ニゴイ	2 タモロコ	1 スズモロコ	4 スズモロコ	14 ウカサギ	9 ウナギ	メダカ														
	ハクレン	5 ハクレン	1 モツゴ	147 マルタ	51 モツゴ	143 モツゴ	86 マルタ	28 マルタ	22 タモロコ	10 モツゴ	41 マルタ	1 モツゴ	87 モツゴ	28 モツゴ	34 タモロコ	1 アユ	カダヤシ														
	モツゴ	5 モツゴ	101 カマツカ	1 ハクレン	2 スズモロコ	4 ニゴイ	11 タモロコ	1 モツゴ	57 モツゴ	43 ニゴイ	23 ハス	1 ニゴイ	21 ニゴイ	7 ニゴイ	2 モツゴ	11 ウカサギ	ボラ														
	ニゴイ	5 スズモロコ	1 スズモロコ	1 モツゴ	118 ニゴイ	1 コイ	13 モツゴ	78 スズモロコ	3 スズモロコ	8 コイ	7 ギンブナ	47 ウグイ	1 マルタ	18 ツチフキ	2 ニゴイ	8 タモロコ	クルマメサヨリ														
	ゲンゴロウナ	2 ニゴイ	13 ニゴイ	9 ツチフキ	1 コイ	9 ゲンゴロウナ	5 ニゴイ	6 ニゴイ	9 ニゴイ	10 キンブナ	1 ゲンゴロウナ	4 マルタ	18 オイカワ	3 マルタ	14 ツチフキ	1	スズモロコ														
	ギンブナ	1 コイ	3 コイ	5 スズモロコ	2 ゲンゴロウナ	10 ギンブナ	65 コイ	4 コイ	7 コイ	5 ゲンゴロウナ	5 コイ	2 ハス	2 ハス	12 オイカワ	8 マルタ	36 モツゴ	スズキ														
	ボラ	14 ゲンゴロウナ	3 ゲンゴロウナ	2 ニゴイ	11 ギンブナ	13 タイリクバラタナゴ	2 ゲンゴロウナ	3 ゲンゴロウナ	7 ゲンゴロウナ	5 ギンブナ	17 トビノサケ	1 ギンブナ	13 ギンブナ	4 ハス	1 オイカワ	6	ニゴイ	キナヌ													
	スズキ	9 ギンブナ	2 ギンブナ	2 コイ	3 タイリクバラタナゴ	1 カダヤシ	7 ギンブナ	64 ギンブナ	38 ギンブナ	33 タイリクバラタナゴ	55 タイリクバラタナゴ	33 ゲンゴロウナ	1 ギンゴウナ	1 ハクレン	2 ハス	3 カマツカ	ブルーギル														
	ヒラギ	23 ボラ	18 カダヤシ	5 ゲンゴロウナ	2 メダカ	2 ボラ	33 タイリクバラタナゴ	27 タイリクバラタナゴ	34 タイリクバラタナゴ	53 カダヤシ	1 ボラ	15 コイ	6 コイ	3 ギンブナ	17 ハクレン	4 ツチフキ	オオクチバス														
	ヌマチチブ	6 スズキ	10 ボラ	39 ギンブナ	10 カダヤシ	41 スズキ	28 ボラ	46 トビノサケ	1 メダカ	7 ボラ	70 カルムチー	14 タイリクバラタナゴ	4 タイリクバラタナゴ	4 ゲンゴロウナ	3 ギンブナ	35 ウグイ	コクチバス														
	マハゼ	52 ヒラギ	2 スズキ	7 アホヒメビラ	1 ボラ	70 ブルーギル	1 カムルチー	6 カダヤシ	5 カダヤシ	11 カムルチー	94 カムルチー	2 メダカ	1 カムルチー	2 コイ	11 ゲンゴロウナ	3 マルタ	ヒラギ														
	アシシロハゼ	1 ヌマチチブ	53 オオクチバス	2 タイリクバラタナゴ	2 スズキ	16 シマイサキ	3 スズキ	56 ボラ	60 ボラ	26 スズキ	14 スズキ	95 カルメサヨリ	1 メダカ	2 タイリクバラタナゴ	8 コイ	5 オイカワ	シマイサキ														
	コノシロ	6 マハゼ	53 ブルーギル	9 メダカ	8 オオクチバス	5 ヨシノボリ類	1 ブルーギル	16 スズキ	20 スズキ	26 ブルーギル	7 ブルーギル	16 カダヤシ	5 カダヤシ	6 コクチバス	11 タイリクバラタナゴ	11 ハス	コトヒキ														
		コノシロ	1 シマイサキ	1 シマイサキ	3 ブルーギル	10 ヌマチチブ	25 ヒラギ	1 オオクチバス	1 ブルーギル	6 ヒラギ	4 ヒラギ	45 ボラ	308 ボラ	59 カダヤシ	4 ギンブナ	1 ウタカ	アベハゼ														
			ヌマチチブ	7 ボラ	91 アベハゼ	1 ビリノゴ	1 シマイサキ	2 ブルーギル	4 ヒラギ	238 シマイサキ	1 シマイサキ	1 スズキ	104 スズキ	13 ボラ	48 カダヤシ	7 ソウギョ	ヒナハゼ														
			マハゼ	29 スズキ	8 ヨシノボリ類	2 マハゼ	71 ヨシノボリ類	1 ヒラギ	2 シマイサキ	2 ヌマチチブ	3 アベハゼ	4 ブルーギル	14 ブルーギル	6 スズキ	13 ボラ	25 ハクレン	クロダハゼ														
			コノシロ	68 オオクチバス	1 ヌマチチブ	4	ヌマチチブ	8 クロダハゼ	1 コトヒキ	1 シモフリシマハゼ	1 ヌマチチブ	6 ヒラギ	1 コクチバス	1 ブルーギル	6 スズキ	43 コクレン	ヨシノボリ類														
				ブルーギル	10 マハゼ	28	シモフリシマハゼ	1 ヌマチチブ	32 アベハゼ	13 マハゼ	24 シモフリシマハゼ	3 シマイサキ	5 ヒラギ	17 コクチバス	1 キナヌ	2 ギンブナ	ウロハゼ														
				ヒラギ	1 アシシロハゼ	6	マハゼ	46 シモフリシマハゼ	2 ヌマチチブ	28 アシシロハゼ	2 マハゼ	151 アベハゼ	43 アベハゼ	3 ヨシノボリ類	2 ブルーギル	32 ギンブナ	ウキヨリ(様不明)														
				アベハゼ	1		アシシロハゼ	2 マハゼ	30 シモフリシマハゼ	3 ヤリタナゴ	2		クロダハゼ	4 ヌマチチブ	47 ヌマチチブ	29 オオクチバス	3	ゲンゴロウナ													
				ヌマチチブ	2		コノシロ	88 アシシロハゼ	3 マハゼ	92 カルメサヨリ	1		ビリンゴ	1 シモフリシマハゼ	7 シモフリシマハゼ	1 ヒラギ	5	キンギョ													
				ビリンゴ	2			コノシロ	20	コノシロ	17		ヌマチチブ	20	ウロハゼ	1 マハゼ	22	アベハゼ	25	コイ											
				マハゼ	63								シモフリシマハゼ	1	マハゼ	84	アシシロハゼ	2	ヒナハゼ	1	コトヒキの種										
				アシシロハゼ	19								マハゼ	77	アシシロハゼ	7		ビリンゴ	1	コトヒキ(様不明)											
				コノシロ	2								アシシロハゼ	4				ヌマチチブ	33	ヤリタナゴ	1	シモフリシマハゼ(様不明)									
																		シモフリシマハゼ	5	アカヒシタビラ											
																		マハゼ	39	タイリクバラタナゴ											
																		アシシロハゼ	2	ゼエナナゴ											
	計	15種類141尾	16種類276尾	19種類389尾	27種類438尾	21種類376尾	18種類359尾	23種類492尾	23種類363尾	25種類691尾	23種類377尾	21種類445尾	27種類758尾	25種類406尾	24種類254尾	30種類361尾															
	隅 田 川	コイ	6 ウカサギ	1 コイ	1 マルタ	3 ボラ	2 ハクレン	1 マルタ	1 ハクレン	2 コイ	4 スズキ	3 コノシロ	9 コノシロ	19 ハス	1 ニゴイ	1 マルタ	1	コノシロ													
		ボラ	6 マルタ	8 ボラ	5 カマツカ	1	ニゴイ	1 コイ	1 コイ	3		ウナギ	1 ニゴイ	5 スズキ	3 ゲンゴロウナ	1 ハクレン	2	ウナギ													
		マハゼ	1 コイ	4 マハゼ	9 ニゴイ	3	ボラ	1 ボラ	1 ボラ	1		マルタ	1 マルタ	2 マハゼ	1 スズキ	1 ギンブナ	1	ウカサギ													
			ゲンゴロウナ	5 コノシロ	6	ゲンゴロウナ	1		アベハゼ	2	マハゼ	2				マハゼ	2	ボラ	1	スズモロコ											
			ボラ	1		ボラ	9		マハゼ	1	アシシロハゼ	1		ヌマチチブ	2	ボラ	13		ヒラギ												
			スズキ	1		スズキ	2				コノシロ	1							モツゴ												
			マハゼ	1		マハゼ	7												ニゴイ												
																			マハゼ												
																			オオクチバス												
																			ゲンゴロウナ												
	計	3種類13尾	7種類21尾	4種類21尾	7種類26尾	1種類2尾	3種類3尾	5種類6尾	6種類10尾	1種類4尾	1種類3尾	7種類19尾	5種類40尾	3種類5尾	4種類5尾	7種類11尾															
	新河岸川	ニゴイ	3 マルタ	7 マルタ	2 オイカワ	76	ニゴイ	2 ギンブナ	1 マルタ	1 オイカワ	15	コイ	1 キンブナ	1 ニゴイ	2 オイカワ	7	ヌマチチブ	2	ボラ	1	スズキ	3	コノシロ								
		コイ	1 ニゴイ	1 コイ	1	タモロコ	1	コイ	1 ヌマチチブ	79	ニゴイ	1 マルタ	44	ヌマチチブ	6	スズキ	2	マハゼ	4	ヌマチチブ	51	ヌマチチブ	4	タモロコ							
		マハゼ	12	コイ	1	ゲンゴロウナ	3	ゲンゴロウナ	2	ヌマチチブ	32	シモフリシマハゼ	1	ボラ	2	ニゴイ	2	シモフリシマハゼ	3	ヌマチチブ	16	オイカワ	8	ブルーギル							
				ゲンゴロウナ	6	ボラ	4	スズキ	2	シモフリシマハゼ	13	マハゼ	6	ヌマチチブ	16	ヌマチチブ	3	コノシロ	2					ギンブナ							
				ボラ	3	スズキ	3	ヌマチチブ	68	マハゼ	2			シモフリシマハゼ	1	シモフリシマハゼ	1							ギンゴロウナ							
			スズキ	1	ブルーギル	1	シモフリシマハゼ	4					マハゼ	1	マハゼ	7							メダカ								
			ヌマチチブ	3	マハゼ	15	マハゼ	6					ヌマチチブ	3	マハゼ	15							メダカ								
			マハゼ	6	コノシロ	22							コノシロ	3									メダカ								
																							メダカ								
																							メダカ								
計	3種類16尾	8種類28尾	8種類53尾	7種類159尾	5種類50尾	4種類87尾	7種類25尾	6種類72尾	4種類12尾	3種類19尾	8種類31尾	4種類12尾	2種類6尾	3種類53尾	3種類21尾																
石神井川	アブラハヤ	2	アブラハヤ	11	アブラハヤ	25	オイカワ	31	オイカワ	60	オイカワ	73	オイカワ	19	オイカワ	31	タモロコ	15	アユ	1	モツゴ	3	タモロコ	5	タモロコ	38	コノシロ				
	モツゴ	14	タモロコ	3	モツゴ	88	アブラハヤ	33	マルタ	2	アブラハヤ	81	アブラハヤ	77	アブラハヤ	202	マルタ	6	アブラハヤ	120	モツゴ	94	タモロコ	10	アブラハヤ	56	モツゴ	16	モツゴ	160	アユ
	コイ	2	モツゴ	196	コイ	75	タモロコ	5	アブラハヤ	121	タモロコ	8	モツゴ	111	モツゴ	52	アブラハヤ	6	タモロコ	9	アブラハヤ	68	モツゴ	50	マルタ	1	ニゴイ	2	ニゴイ	1	タモロコ
	ギンブナ	1	ギンブナ	2	ゲンゴロウナ	9	タモロコ	74	タモロコ	12	モツゴ	106	コイ	2	コイ	9	アブラハヤ	164	オイカワ	3	アブラハヤ	27	アブラハヤ	164	オイカワ	3	アブラハヤ	298	アブラハヤ	261	モツゴ
	ドジョウ	1	タイリクバラタナゴ	1	ギンブナ	3	コイ	1	モツゴ	88	コイ	4	ドジョウ	19	ギンブナ	1	モツゴ	5	ニゴイ	1	ギンブナ	17	マルタ	3	ドジョウ	21	ウグイ	1	ウグイ	1	ニゴイ
	ウキヨリ(淡水型)	1	ドジョウ	11	ドジョウ	33	ギンブナ	4	コイ	3	ゲンゴロウナ	2	ヨシノボリ類	3	ギンブナ	2	ニゴイ	1	コイ	3	ゲンゴロウナ	2	オイカワ	24	シマドジョウ	1	オイカワ	105	オイカワ	73	アブラハヤ
			メダカ	2	メダカ	12	ドジョウ	140	ゲンゴロウナ	6	ギンブナ	8	グッピー	2	ドジョウ	22	ギンブナ	3	ギンブナ	1	コイ	1	ギンブナ	12	ギンブナ	1	ギンブナ	1	ギンブナ	1	ウグイ
			ヨシノボリ類	9	ボラ	1	ギンブナ	8	ドジョウ	23	ドジョウ	41			カダヤシ	1	ドジョウ	41	ドジョウ	18	ドジョウ	7	キンギョ	1	ヌマチチブ	33	ドジョウ	40	ドジョウ	26	マルタ
			ウキヨリ(淡水型)	2	シモフリシマハゼ	1	ブルーギル	5	ギンバチ	2	ギンバチ	1			クロダハゼ	1	ギンバチ	3	ギンバチ	13	ギンバチ	4	コイ	1	ウキヨリ(様不明)	2	シマドジョウ	8	シマドジョウ	11	オイカワ
			コノシロ	1	コノシロ	2	ヨシノボリ類	13	メダカ	2	メダカ	1			ヌマチチブ	3	メダカ	3	メダカ	2	メダカ	2	ドジョウ	4							ギンバチ
計	6種類21尾	9種類237尾	12種類250尾	13種類313尾	14種類311尾	14種類325尾	7種類216尾	10種類366尾	16種類116尾	16種類229尾	13種類823尾	13種類628尾	15種類754尾	13種類274尾	9種類121尾	13種類524尾	13種類593尾														
合計	19種類191尾	24種類562尾	25種類713尾	36種類936尾	28種類739尾	28種類774尾	27種類739尾	27種類811尾	31種類823尾	31種類628尾	31種類823尾	31種類628尾	33種類1084尾	30種類538尾	31種類836尾	36種類986尾		総合計 57種類													

【河川水質の経年変化（年平均値）】





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
C	荒川 隅田川 石神井川	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上
D	新河岸川	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以下	2mg/L以上

※類型は東京都告示第597号（平成9年5月13日）により指定されている。

- 水素イオン濃度（pH）：
液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量（BOD）：
水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質（SS）：
水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川にSSが多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量（DO）：
水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚介類は生存できません。



北区河川生物生息調査報告書

平成 29 年 3 月発行

刊行物登録番号
28-1-140

発行／北区生活環境部環境課

〒114-8508

東京都北区王子本町 1-15-22

TEL 03 (3908) 8618 (直通)